

第3回葉山町自殺対策計画策定委員会 議事録

1. 日 時 平成30年11月21日(水) 13:30~15:00
2. 場 所 葉山町教育総合センター 2階 研修室
3. 出席者 鈴木健二(委員長)、中越章乃(副委員長)、岸 光男、石井健二、鈴木祐之、小宮和子
4. 議 題 ①葉山町自殺対策計画パブリックコメント(案)について
②パブリックコメントの実施について
③その他
5. 資 料
【資料1】葉山町自殺対策計画(仮案)
【資料2】葉山町自殺対策計画(仮案)庁内会議後の修正版
【参考資料】第2回葉山町自殺対策計画策定委員会議事録
【参考資料】葉山町自殺対策計画の策定に係るスケジュール

【開会のあいさつ】

委員長：今回第3回ということで、自殺対策というものがだいぶん頭の中に入ってきた様に思います。葉山町自殺対策計画(仮案)について、話し合いながらパブリックコメントをいただけるものにできているかなどチェックさせて頂きたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

事務局：本日出席の委員は6名ということで、過半数は出席を頂いております。規則にあるとおり、本委員会は成立することを報告させていただきます。また、傍聴につきましても今回申し込みがございませんでした。ここから先は改めて委員長に進行をお願いいたします。

【議題1 葉山町自殺対策計画パブリックコメント(案)について】

委員長：それでは、議事に入ります。事務局より説明願います。

事務局：資料1、2より葉山町自殺対策計画(仮案)について説明。

資料1をもとに、庁内検討会の意見を反映させ資料2を作成しました。計画の性格と位置付けのところは、他の計画とのつながり、整合性をわかりやすくするため、図を整理致しました。第2章、前回委員の方から自殺死亡率のところ分かりにくいとご意見がありましたので、標記を変更させていただきました。11 ページ、葉山町の自殺の特徴について、前回沢山ご討議頂いたところです。

(2) 自殺者から推測される特徴です。平成24年から28年までの5年間の葉山町自殺者数は21人でした。自殺総合対策推進センター自殺実態・統計分析室が葉山町の自殺者の分析を行い、地域の自殺特性の評価を出した結果、自殺者1人の増減で特性が影響を受ける状態でした。これから、現在の葉山町の自殺

者は人数としては少ないため、特徴として挙げたものが今後、変わる可能性が高いといえます。よって、自殺総合対策推進センター自殺実態・統計分析室の分析結果から重点施策を挙げて取り組むよりも、様々な環境におかれている人々の現状と、その背景にある自殺の危機経路について常に考え、必要な人に問題が複雑化する前の早い段階からにきめ細やかな支援を導入すること、及び、より多くの町民が自殺対策について知り自殺に追い込まれない社会を創ることが、葉山町においての最も効果的な自殺対策であると推測されます。これを特徴として出していきたいと考えています。16 ページの3章について。自殺対策の基本理念・基本方針ですが、シンプルに誰も自殺に追い込まれることのない、生き心地のよい葉山町で暮そうとなりました。基本方針は前回と変わっておりません。数値目標のところは5年間毎年の毎年をとって、5年間を通して0人にしました。17 ページ第4章に移ります。葉山町実情に即して柱を4つに絞りこみました。1 こころの健康づくり、2 自殺対策に対する普及啓発、3 相談支援の充実、4 関係機関の連携強化。この4つの柱で展開していこうと思います。それぞれの柱ごとに年代でどんなことをするか、全部の年代でどんなことがあるのかを書いてあります。全体を通して初めて自殺対策を読んだ方が分かる様な参考資料の載せ方にしています。この4つの柱を何故置いたかが、四角に囲った部分で分かる様にしてあります。29 ページ成果指標について、数値目標は5年間で自殺で亡くなった方を0人にしようという目標を立てましたが、数以外にどの様なことで評価していこうかという目安の指標になっています。大きな変更点を中心に報告しました以上です。

委員長：ご意見いかがでしょうか。

副委員長：5ページの金融危機等の破綻とありますが、危機ではなく機関では。

委員長：字の間違いではないかということですね。

事務局：金融機関等に訂正します。

委員：この計画案を出してパブリックコメントを貰うという感じですか。

事務局：はい

委員：そうであれば、自殺死亡率について、参考の形でも良いので、自殺者の数が問題ではなく、死亡率が問題である、死亡率で見ると言う説明をもう少しの方が良いような感じがします。人口が多いところは多いのが当たり前で、少ないところは少ないので、死亡率でみるのが大事という事をどこかに入れて頂ければ良いのかと、本文のところでも良いと思います。

事務局：はい

委員：人口の多い市町村では自殺者数は多くなります。数ではなく10万単位の死亡率で。

委員長：死亡率で出している総計というのはあるのですか。

委員：何十万単位の人口割で出してあります。その率が高いのが問題になる。当然

横浜市などは多くなります。自殺を見る場合は数ではなく、死亡率を見ましようということを言いたいです。

事務局：4ページの自殺をめぐる現状のところ、統計の話もしているので、「葉山町は人口が少ないため、本計画では二つの統計を～」のところ、比較については主に死亡率を用いています、という但し書きを入れます。

委員：町民の方に、数だけ見るのではないと。自殺者については数でみる方が多いと思いますが、見方は死亡率で見ると伝えられたら良いと思います。葉山だけではないですが。当然人口が多ければ数も多くなります。自殺者数の多い少ないではなく、死亡率がとても大事になるというところを書いて頂ければと思います。

事務局：自殺死亡率について6ページにも詳しくのせてありますので、自殺死亡率で見ることがいかに大切かという事がわかる記載にする形でよろしいでしょうか。

委員長：表は自殺全体を把握するために自殺率として人口対で出すと良いけれど、ちょっと見にくいとか、とらえにくい表になっています。太く書いているのは人数と言うリアリティーを出したかったということですよね。葉山などは年ごとにばらつきが大きいということ。

事務局：死亡率自体はやや下降線を描いているというのはわかるのかなということ。死亡率として、3の後は0しかないと言う。

委員長：数値目標について、5年間で0人というのは大変な目標です。1年間で0人にしようというものの5倍ですから。目標ですがどうしてこんなに高くしたのか。

事務局：国からも1人の次は0人しか認められませんというようなお話がありました。5年間でならずと0人で無くても良いのではとの質問もしましたが、そうすると今より多い人数が良いということですかということで、0人しかないということになりました。県も同じくでした。あくまで目標は高く。1人でも亡くなる方が出た時は目標が達成できないというのが、0人の危険性ですが、0人を目指すべきであろうということで、目標は高くこの標記にさせて頂きたいと思えます。

委員：3万人を10万人として考えるような意識で物事をとらえないといけないという、皆様方にそういうものの考え方というのが行き渡るようなご説明をして頂けると良いですね。その考え方については、ほっとしていいのか。1人でも亡くなつてはいけないのかと0人を追及すると、たとえば高齢の方が酸素のマスクを自分で外して、亡くなったりするようなことから含まれるのか、というようなことも頭の中をかすめるものですから。

事務局：数を追及してしまうと、自殺された方が悪いような、自死遺族の方が、傷ついてしまう計画の展開は望ましくないと思います。あくまでも自殺に追い込まれそうになった時、誰かが早く気が付くとか、最悪亡くなられても皆が後ろ指

を指すことなく、支援の手が入るようなそういう町にすることが望ましいと思います。

もともと国がこの計画策定にあたって、数値目標を定めて下さいという話をしているところが、葉山町ぐらいの自治体では無理があるなど。本当は文章で限りなく自殺者を出さないようにとしようとして検討したのですが、後から葉山町ではどの様な数値目標を置いているのですかという聞き方をされた時に、0人ですという根拠を出さないといけないという辛い部分もあり、神奈川県は文章の中で今何ポイントあるのを何ポイントまで減らせるかという表記になっています。町もその様に書けると良いのですが、町ではこの様な表記になってしまいました。平成27年は7人と多くの方が自殺で亡くなってしまったので、5年トータルすると21人。単純に割り算をすると1年4人位。4人を2人の数値目標にするのはどうかということになったのですが、28年、29年と1人ずつという事を踏まえると、近年1人だったので、30年度以降2人にする、3人にするというのはどうかということで。今回は0人ということで町として取り組んでいきたいという気持ちで数値目標を設定しました。

委員長：一般的には50%減らすというのが現実的ですよ。0という数字は大きすぎる。自殺は大きな問題だが、万全に対策が立てられているわけではない。50%に減らすとなると大きな数字に見えますが、元的人数は何人かと言われると困りますね。

事務局：1人以下は、数字を聞かれると%で出すのは難しいですね。

委員長：国がそのように言っているのだから、国から言われた無理難題の一つと言えますね。

委員：地域によって人口とか内容が違うのに、例えば葉山町3万人と沖縄県の3万人とすると、地域が全然違うのに雇用率とか、その数字で比較してしまうとか、地域の特性とか考えずに、国として全体の比較にどうしてもなってしまいますね。

委員：目標は自殺者の数しか書けないですか。

事務局：1人出ても良いのだ、と捉えられる方が嫌かと。0人は目標でもあるし、このような意気込みでやるのだと言いきれるのではと思っています。神奈川県としては数値目標として自殺死亡率も記載していますが、平成28年14.6から5年間で15%以上減少させ、平成33年には12.4以下にしますと。10万の例の仕様にしたのですが、今、葉山町は1人で3というポイントなので、1.5にしますと言うと人換算にすると0.何人となってしまふ。ちょっと説明が辛いなということになります。

委員長：この委員会としては0という数字を掲げざるを得ないが、できるだけ減らしましょうということですね。

委員：説明を聞いていると数の問題ではなく自殺対策をやりながら、生きやすい世

の中とか、生きるための支援とかを町でやりましょうということですね。計画はさておき、それを全面に出しておいた方が、良いのではと思います。

委員：逆に言うと自殺と考えるのではなく生きる目標として考える。こういう地域なんですよ、お年寄りが生きて行ける地域、皆さんが生きている地域、東京からリタイアして移ってくるとか、暮らしやすいからという考えなら良いのですが。自殺対策と言うことではなく、皆さんこの地域で生きて行けますよ。暮して楽しいですよという気持ちでこの対策を考えていくのが、この委員会としての役割だと思います。葉山町は人口が少ないですが、生きていくには本当に良いところですよ、という気持ちを持って。本当に感情を持ってお仕事をして頂いて、そういう町づくりを目指すところになりますという形で良いのではと思います。

委員長：他にご意見いかがでしょうか。

事務局：具体的にこちらから提案させて頂きたいのですが、11ページの自殺の特徴について、今話題にしていたことに係る部分ですが、葉山町の特徴についての記述についてはだいぶ内容を変更させて頂いたのですが、皆様のご意見を頂ければと思っています。

委員長：11ページの葉山町の自殺の特徴というのが1と2に分かれていて、1葉山町の自殺死亡率から推測される特徴はこれで良いとして、2の自殺者から推測される特徴というのは読んでも何も分らない。

事務局：特徴のないのが特徴ということで。

委員長：そういうことは何処にも書いていないですね。表を削除したために何を言っているのか分からない。この文章は検討しないと。

事務局：人数が少なすぎて、自殺の主な経路から自分のところの身内だと想像される遺族の方もいらっしゃる。このあたりの配慮ができないかというご意見を頂いたのですが。

委員長：神奈川県の特徴を要約する形でこの5年間というのに限らず、これまでの何十年間の特徴を書けばいいのでは。特徴ですから。ある種の普遍性を持っているということを出せばよい。神奈川県の一部なのだから神奈川県の特徴を出して書くのも良い。少ない数だからいろいろなことは書けないと思う。どちらにしても、この文章はいけないですね。皆さんいかがですか。

事務局：意図したかったことは、葉山は海があるからこのようなケースが増えるね、というものがあれば特長として書けますが、この10年見ても特徴が無く。具体的に何かあれば書けますが、無いということでそれが葉山町なのかなという事を示したかった。という文章に置き換えてよろしいでしょうかということなのですが。

委員長：特徴がありませんということにわざわざ線を引いて書くことは無いでしょう。

委員：自殺を防げたのか、どうすれば防げたのかという事を教えて頂ければ良いの

かと思えます。防げる自殺と防げない自殺に分けることはできないと思えますが、皆さんが何とか防ごうと努力していることを、私たちに教えて下さるとどうやったらこれを防げたかもしれないという事があると分かり良いかと思えます。

事務局：特徴があれば、基本的に特徴に対してこういう事をやっていけば防げたのではないか、という事を作って行きたいので、先ず特徴があるのかを見てみましょうというのがここだったのです。何をやったら防げるのかという建前論に入ると、全ての自殺は防げるということになります。防げないことはないという事が今回望まれていることなのかなと思えます。

委員長：9ページに葉山の特徴が出ているわけですね。職業の有無、その上の自殺の原因動機。

事務局：これは神奈川県ですね。

委員長：上は神奈川県で、下は葉山町。勤め人が6人で高齢者や未成年者が居ない。主婦もいない訳だから、非常に偏っていますね。これ以上のものは出せない。

事務局：葉山町はサンプルも少ない。事前に配布した書類を確認下さい。もともとどうだったのか、庁内検討委員会の前に作成したものです。庁内検討会の意見を聞く前のものです。葉山町の特徴である～これが逆に生々しすぎる。とった方が良いというのが庁内検討会から出た意見です。年齢層を見ても、男女別、仕事の有る、無を見ても特徴が無い。という説明の文章に変えさせて頂いて良いでしょうか。

委員：神奈川はこういう特徴があるが、葉山は特徴がないと、書くのも良いのでは。

委員長：神奈川はこういう特徴があります。葉山は個別性が強すぎて累計化できない(数が少なすぎて)というのが特徴というようにした方が良いでしょう。

事務局：文末は特定の事に対して、対策していくのは不向きであるということでもとめさせて頂いて頂きます。

委員：全町民全世帯に向けて発信しますとすると良いでしょう。

委員：今日配布された資料の22ページと25ページの4番、関係機関との連携強化について。四角に囲われた文章、2行目に生きづらさも非常に多様化、複合化しており～のところで「複合化」というのが同じ資料の3ページの表の中真ん中あたりに、複雑化、複合化というのがあるのですが。細かくて申し訳ないが、同じ言葉だが、漢字が複と復何が違うのでしょうか。

事務局：復は間違いです。厚生省の資料の抜粋です。複合化は複雑の複です。

委員：葉山が間違いでなければ問題ありません。

事務局：沢山あった柱立てを4つに整理しました。大綱にあります38ページの重点施策の(ポイント)による12の柱については、1番のところは進捗管理のところに、あとは4つの柱に整理しつつ落とし込んだつもりです。前回の委員会の時に国、県のをみならって、大柱、中柱、小柱体系図を一生懸命広げたの

ですが、逆に皆さんから分かりにくい、葉山であればもっとコンパクトなもので良いのではないかというご意見を踏まえて、今回は本当に必要な柱だけにまとめ、すっきりとしたように思います。大柱相当のものを絞って、4つにまとめました。それに沿って施策を行っていくということになります。

副委員長：大柱だけ残してというのは分かりやすくなって良いと思います。ただ、下の参考図について関連の説明があった方が良いと思います。行政で行っていくという事なのかなと思いますが。

事務局：17 ページに三層モデルを載せたのは葉山町が地域連携、対人支援のレベルを充実させたいということで載せたので、載せるのであれば少し説明を加えたいと思います。限りなく地域連携と対人支援の充実を力を入れていくという計画になりますので、ここを補足で説明をいれたいと思います。

四角の囲みは入れても良かったでしょうか。こころの健康づくりとか初めのところでは。多くのところで、現状があって、課題があってこういう施策をやりますよというような作りになっている計画が多いと思いますが、ここできちんと整理し、タイトルで何故こころの健康作りが必要なのかというエッセンスを少し説明させて頂いて、そのためにそのあとに付いている〇はこころの健康づくりについてこういう事をしていきますという説明をさせて頂くということで作ったのですが。何の説明もないと少し分かりにくいかと思ひまして。

委員：囲った四角の上に、健康づくりの理由とかがあると、どういう理由で書いてあるのかが分かりやすいと思います。タイトルなどがあるといいかと思ひます。四角が1 こころの健康づくり、柱の理由が書いてある。どういうタイトルが好ましいかすぐに出てきませんが、柱を掲げた理由という意味合いのタイトル。この文章のタイトルがあると分かりやすいと思います。

委員長：この四角の上にこころの健康づくりを太文字にして一緒にすると体裁もいいですね。あとは具体的な取組ということになると思ひます。レイアウトの問題ですね。

事務局：全体に章立ての記載の大きさ、行間のバランスもまちまちなのでレイアウトを修正させて頂きます。見栄えの良いものにしていきたいと思ひます。

委員長：17 ページの葉山町の自殺対策の4つの柱と参考の関連がつかみにくいですね。

事務局：4つの柱と参考の間に「葉山町としては地域連携、対人支援のレベルに力を入れていきます。」と説明を入れて参考を残したいと思ひます。下の三角形のところ職場の人間関係、いじめ、子育ての悩み、この表を見ると、こういう悩みのある人が自殺の可能性のある人と分かりやすい図なので。

委員：出展があると思ひますが。

事務局：引用が下にあります。四角の中に入らなければならないのですがこちらのミスです。

委員：これをもとに書いて頂ければ分かりやすいと思ひます。

事務局：説明文を書いた後に参考図としても良いかもしれません。工夫します。
委員長：22 ページ下の4行いじめや不登校、児童虐待等の～ところで、スクールカウンセラーは居ると思いますが、スクールソーシャルワーカーとかこころの教室相談員は居るのでしょうか。スクールソーシャルワーカー出てきたばかりだし、こころの教室相談員は聞いたことが無いので。

事務局：確認しておきます。

委員長：スクールソーシャルワーカーは比較的新しいですね。

委員：24 ページの上から2行目消防署に精神科の受診が～のところ「精神科救急医療情報窓口」は休日、夜間のみです。消防署は知らないと思いますが、本来、紹介先は平日の昼間は役場か保健所になります。休日、夜間についてはこちらが窓口。このところを直して下さい。本来なら受診の問い合わせは保健所か福祉課に行くと思います。

委員長：平日、葉山町はどこになりますか。

委員：保健所は鎌倉保健福祉事務所、役場の福祉課に連絡が行くと思います。

事務局：記載を変更します。

先ほどのスクールソーシャルワーカーについてですが、葉山中学校と南郷中学校両方にこころの教室相談員、ソーシャルワーカーの先生がいるとのこと。定期的にスケジュールを組んで回っているようです。

また、先程のこころの健康づくり18ページのところですが、【施策の展開の視点】ということでタイトルを打たせて頂きたいと思います。4つの柱が施策になります。この施策を展開していく上ではこういう視点でこの箱の中に書いてあることを考えると、具体的な取組が書かれていますが、こうなって行くんだという事で20ページの2番、自殺対策に対する普及啓発についても、4つの柱全て共通で箱のタイトルとして施策展開の視点として箱の上にかかせていただこうと思っております。

委員長：レイアウトの問題ですね。

いろいろなご意見が出尽くしたと思います。他にご意見いかがでしょうか。

事務局：資料編につきましてもよろしいでしょうか。

委員長：事務局の方で体裁を整えて頂いてよいと思います。事務局から他にいかがでしょうか。

【議題2 パブリックコメントの実施について】

事務局：パブリックコメントの実施について参考資料としてスケジュールをお配りしました。こちらについて、説明させていただきます。

改めて、計画案についてご審議いただきありがとうございます。事務局で見栄えのする様にまとめさせて頂いてパブリックコメント案として出させて頂くことができそうです。今頂きましたご意見を委員長に一任ということで、最終的にまとめたものを見て頂き、パブコメ案とすることということでよろしいで

しょうか。(了承)本日11月21日にパブコメ案としてご審議いただき、庁内の関係各課にも協力をいただいているので、再来週部長会議とパブコメを実施するという事を伝えさせていただきます。同日か5日になると思いますが、教育民生常任委員会で議員に対しパブコメの実施説明をさせていただきます。12月10日から1月9日パブコメを実施、その結果を1月下旬に事務局でまとめ、町の考え方等もまとめていきたいと思っています。それを踏まえ最終案として庁内の検討会議にかけ、網掛けになっておりますが、年明け31年2月の中旬ごろ第4回の策定委員会を開催させて頂ければと思っております。日程については改めて調整させて頂きたいと思っています。ここで案を固めさせて頂き、ご意見を頂いたものも調整させて頂き、パブコメの結果、町の考えを公表した上で外部の決裁を経て、3月下旬には計画を公表している関係各所に配布するというスケジュールで進めさせて頂きたいと思っています。

また、事務連絡になりますが、第2回の会議の議事録について、修正箇所がございましたらお申し出ください。後日、11月26日まで連絡頂いたものまで反映させて公開させていただきます。

本日もありがとうございました。